

地震発生時の行動原則

- 1 グラツきしたら、まず身の安全!
- 2 揺れがおさまったら、火の元確認、初期消火!
- 3 安全確保に努め、より安全な場所へ避難!



災害が発生したら

正確な情報を収集する

- 倒れやすいものから離れ、落下物に注意。
- むやみに動かず安全を確認。
- 非常口やドアなどを開けて避難口を確保。
- 避難は徒歩で、荷物は最小限に。
(火を扱っている場合は、身の安全を確認後火の始末)
- エレベーターを使用せず階段で避難。
(本学のエレベーターは地震が発生した場合、自動的に停止するシステムになっています。)
- 正確な情報収集に努め、なるべく集団で行動。
- 負傷者の救護や初期消火に協力。
- 家族との安否確認および大学へ安否連絡。



日頃の準備

大地震の発生を防ぐことはできなくても、適切な準備を行うことで被害を軽減することができます。どんな備えが必要か考えておきましょう。

- 避難場所の確認(大学付近および自宅周辺など)
- 家族との連絡方法および待合せ場所の確認
- 災害用伝言サービスの確認と登録(メール宛先などの事前登録が必要)
- 帰宅ルートおよび所要時間の確認(災害時徒歩 約 2.5 km / h)
- 緊急時メモの作成・記入
- 具体的な情報収集手段および緊急避難場所などの確認(大学および通学途中)
- 転倒防止策や緊急時アイテムの確認
- 大学および友人などへの連絡方法の確認およびリスト整備

本マニュアルは、本学ホームページよりプリントアウトできるので、ご家族にも事前にお伝え下さい。
<http://urayasu.meikai.ac.jp/>



緊急避難アイテム

日頃から準備・携帯しておくくと便利な物

- | | |
|--|---|
| <input type="checkbox"/> 現金(小銭も) | <input type="checkbox"/> アドレス帳 |
| <input type="checkbox"/> 健康保険証 | (家族、友人の連絡先を記入) |
| <input type="checkbox"/> 学生証(免許証なども) | <input type="checkbox"/> 雨具(カッパなど) |
| <input type="checkbox"/> タオル・ばんそうこう・包帯 | <input type="checkbox"/> 携帯充電用 USB ケーブル |
| <input type="checkbox"/> 手回し充電ラジオ・ライト | <input type="checkbox"/> ポリエチレン製ごみ袋 |
| <input type="checkbox"/> ティッシュ・ウエットティッシュ | <input type="checkbox"/> 油性マジックペン |
| <input type="checkbox"/> 非常用保温アルミシート | |
| <input type="checkbox"/> チョコレート・あめなど | |

その他非常時に必要なアイテム

- | | |
|------------------------------------|-----------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 非常用食料・水 | <input type="checkbox"/> 上着・下着・靴下 |
| <input type="checkbox"/> 貯金通帳 | <input type="checkbox"/> リュック |
| <input type="checkbox"/> 印鑑 | <input type="checkbox"/> 懐中電灯 |
| <input type="checkbox"/> 常用薬とその処方箋 | <input type="checkbox"/> ろうそく |
| <input type="checkbox"/> 運動靴 | <input type="checkbox"/> 缶切り・栓抜き |
| <input type="checkbox"/> スリッパ | <input type="checkbox"/> 洗面用具 |
| <input type="checkbox"/> 卓上コンロ | <input type="checkbox"/> 使い捨てカイロ |
| <input type="checkbox"/> ひも・ロープ | <input type="checkbox"/> 軍手 |
| <input type="checkbox"/> 予備電池 | <input type="checkbox"/> マスク |
| <input type="checkbox"/> ライター | <input type="checkbox"/> ホイッスル |
| <input type="checkbox"/> わりばし | |

メモ欄

* 記入は油性のペンを使用してください。



大学への連絡方法

落ち着いたら大学へ安否を知らせる

安否連絡の報告事項

- 1 氏名 2 学籍番号 3 学年 4 学部(課程)
- 5 学科(組) 6 本人・家族の状況 7 自宅・実家の状況

安否連絡方法について

1. インターネットからの報告も

① ポータルサイト

PC
<http://urayasu.meikai.ac.jp/>
スマートフォン
<https://uni1.meikai.ac.jp/s>



② Eメール
anpi@meikai.ac.jp

2. はがきによる報告

送り先
〒279-8550
千葉県浦安市明海 1 丁目
明海大学 学生支援課(学生支援担当)宛

3. 電話による報告

電話番号 047-350-4994



家族への連絡方法

NTT災害用伝言ダイヤルサービス

地震など大災害発生時に、安否確認などの電話が爆発的に増加し、つながりにくい状況になった場合、提供されるサービス。

伝言の録音伝言の再生

① 171 へ電話をかけます。
ガイダンスが流れます。

② 1 2

③ 市外局番 + 自宅電話番号 市外局番 + 被災地の方の電話番号

市外局番 電話番号 事前に記入しておきましょう

--	--	--	--	--

* 被災地の方も、被災地以外の方も利用方法は同じです。

- 利用可能な端末 / NTTの一般電話、公衆電話、携帯電話
- 蓄積伝言数 / 1 電話番号あたり 1 ~ 10 伝言
- 録音時間 / 1 伝言 30 秒以内
- 伝言保存期間 / 2 日間 (48 時間 * 自動消去)

事前の登録が必要です! (事前にテストをしてください)

携帯各社の災害用伝言板サービス

大規模災害時に携帯電話から安否確認(安否情報の登録)ができる災害用伝言板サービス。

あらかじめ指定したご家族や知人に対して、災害用伝言板に登録されたことをメールでお知らせする機能も提供される。また、インターネットからも安否情報の確認が可能。

各社の QR コードはこちら

NTTドコモ		au	
ソフトバンク		ワイモバイル	

NTTドコモ	http://dengon.docomo.ne.jp/top.cgi
au	http://dengon.ezweb.ne.jp/
ソフトバンク	http://dengon.softbank.ne.jp/
Y!mobile	http://dengon.ymobile.jp/

大地震対応 マニュアル



もしもの時にあなたの身を守る

明海大学 浦安キャンパス

緊急時パーソナルメモ

氏名
学 科 学籍番号
住 所
電話番号
生年月日
持 病 常用薬
アレルギー
血液型 Rh ()
自宅近くの避難場所
家族との待合せ場所 家族と共有しておきましょう
緊急時連絡先	
氏名 (問柄) 電話番号:
氏名 (問柄) 電話番号:
氏名 (問柄) 電話番号:

* 記入は油性のペンを使用してください。

地震発生直後

揺れがおさまったら

落ち着いたら①

落ち着いたら②



地震発生

身を守る

(概ね震度5以上を設定しております。)

今いる場所は
本当に安全?

YES
その場所を動かない

NO
避難場所へ避難



家族との
安否確認

※裏面参照

自宅が大学に
歩いて帰れる?

YES
自宅or大学へ

NO
避難場所へ



大学へ
安否連絡

※裏面参照

POINT

POINT

POINT

POINT



大学に
いるとき

大きな揺れを感じたら

- 危険物から離れる
窓や棚、ガラスなど割れたり中のものが飛び出しそうなものから離れる。実習中や課外活動などで、周囲に危険なものがある場合は、すみやかにその場から離れる。
- 落下物から頭と手足を守る
机の下にもぐる、バッグなどで頭を覆うなどして、頭と手足を守る。落下物がない場所にいる場合は、その場で座り込む。
- 出口を確保する
ドア付近にいる人は、ドアを開け、出口を確保する。(余裕がある場合)
- 揺れがおさまるのを待つ
安全を確保して、揺れがおさまるのを待つ。

揺れがおさまったら

- 冷静に、落ち着く
余震の可能性もあるので、あわてずにしばらく様子を見る。
- 大学の防災本部から指示を待つ
安全な避難場所が判明次第非常放送が行われる。
- 避難の開始
非常放送や教職員の誘導に従い、移動する。
- 避難する時の注意点
- 「おかしも」を守る
「おさない、かけない、しゃべらない、もどらない」を守り、落ち着いて避難。身の回りのものは身につけるが、避難に支障が出る大きな荷物は置いていく。
- 火災が発生している場合
煙を吸わないよう、タオルなどで口を覆う。
- 階段で移動
エレベーターは使用せず、階段で移動する。

各避難場所に集合したら

- 大学の防災本部が安否確認を行う。
- 帰宅が学内にとどまるかは、大学の防災本部が指示する。その指示があるまで自分勝手な行動は慎む。
- 大学ではあらかじめ以下の場所を避難場所として想定していますが、地震時の状況により安全な場所へ避難してください。

学内避難場所地図



通学中・外出時

- 周囲の状況に注意し、身の安全の確保を最優先とする。
- 塀、電柱、自動販売機などから離れ、落下物にも注意する。
- むやみに動かず安全を確保する。
- 被害状況を正しく把握する。
- 事前に家族と相談して決めた避難場所に移動する。ただし、被災場所やその場の状況によっては安全を最優先し、別の避難場所に移動する。

- 避難中は警察や消防の指示に従う。
- 避難は徒歩で、荷物は最小限に。(火を扱っている場合は、身の安全を確認後、火の始末)
- 正確な情報収集に努め、なるべく集団で行動する。
- エレベーターを使用せず階段で避難する。
- 負傷者の救護や初期消火に協力する。

津波

- 津波の情報(テレビ・ラジオ)を得たら、できるだけ海岸から離れ、高台へ避難する。
- 浸水が始まったら、遠くへ避難するより高い場所へ避難する。
- 津波は河川をさかのぼるので、河川沿いの避難は危険。
- 車での避難は避ける。道路が渋滞し時間をロスする。
- 津波は繰り返し襲ってくるので、警報・注意報が解除されるまで油断せず、引き波にも注意する。

防災情報web



国土交通省の
防災情報がご覧いただけます。
<http://www.mlit.go.jp/mobile/top.html>

帰宅支援ステーション

災害時の徒歩帰宅者を支援するために、「水道水」「トイレ」「道路情報」などの情報の提供をしてくれる。ステッカーを店頭に掲示した、コンビニやガソリンスタンド、ファミレスなどがその役割を担ってくれる。

